



ブラジル岩手県人会創立60周年・県人移住100周年 記念式典を盛大に開催 「親睦を原点に」



60° anos fundação da Iwate kenjinkai e 100 anos

da imigração e iwate Realizou cerimônia comemorativa

8月26日(日)、ブラジル岩手県人会創立60周年・県人移住100周年記念式典が午前10時から、電工会館ホール(県人会通り50番地)で行われた。

式典には母県から達増拓也県知事、佐々木順一県議会議長はじめ、谷藤裕明盛岡市長、本田敏秋遠野市長、小野寺金ヶ崎町副町長はじめ、慶祝として郷土芸能使節団10名(会長 藤沢清美)、相撲連盟関係者、東根千万億岩手日報社長、吉田恭子県人会賛助会会長など約40名に、パラグアイ3県人会、ベレン県人会などが参列し節目を祝った。

大久保順子(日語)、高橋カルロス(ポ語)両ベテラン司会で、初めに日伯両国歌斉唱、先亡者への黙祷、田口精基副会長が開会を宣言。



千田曠曉会長は多くの参列者を迎えて成大に開催できる事に感謝。また日本移民の提唱者、杉村濤第三代公使(1906年没、リオ市内墓地に眠る)を称え、日本移民導入に貢献した事を改めて伝えた。今後、60周年を機に県人先駆者の「ふるさと岩手を思う心」を大切に「親睦を原点」として、後継者育成や母県岩手との交流を深めたいと述べ、県人会の歴史や移住者名簿や子弟関係などの記



録を記念誌にと報告した。

達増県知事は、気候、風土、言語、習慣の違う異国で様々な困難を乗り越え、現在の地位を築いた県人や日系同胞の努力に敬意を表し、2011年3月の東日本大震災から7年5か月が過ぎ、復興事業の総仕上げと地域振興に取り組んでいると語り、世界中から受けた震災支援への感謝を述べ、復興に向けて進める地域の姿を発信する準備を進めていると述べた。



野口泰総領事、谷藤裕明盛岡市長、本田敏秋遠野市長、小野寺正徳金ヶ崎町副町長、山田康夫県人会連合会会長、菊地義治日本移民110周年実行委員長の祝辞があった。





写真上は左から祝辞を述べる谷藤盛岡市長、本田遠野市長、小野寺金ヶ崎町副町長、

達増県知事より県人移住功労者表彰では、大志田良子さん（金ヶ崎町・93才）ら15名が表彰され千田会長が代理受理した。



受賞者は、大志田良子さん、佐々木寛一さん、前川鮎之助さん、岩淵克明さん、和賀季耕さん、菅原正芳さん、菊地透さん（写真左）、高橋信男さん、阿部正司さん、渡辺誠一さん、佐々木憲次さん、千田輝海さん、服部葉子さん、平尾宏子さん、藤沢晴巳さんでした。

「ハプニング」表彰者名を呼び出しましたが、舞台に来て貰えず会長が代理受理となりました。悪しからず。

県人会から記念品を母県側来賓や南米県人会へ、県から県人会に激励金や記念品の贈呈、谷藤盛岡市長や本田遠野市長からは県人会や日系団体へ激励金の贈呈があった。



2016年度研修生「八重樫亜紀カリ」さんが留学生・研修生を代表して、これまで91名の留研究生受入れに感謝し、制度の継続を願い、記念品を達増県知事に贈った。知事からも記念品の贈呈が八重樫さんにあり式の一部が修了した。その後県人子弟の多くが参加している「おたちミリアンさんのコーラス」が「ふるさとの歌」を披露。



最後に岩手県人会太鼓「雷神」の演奏があり式典の部は終了した。



60周年記念祝賀会



Celebração do 60º anos



記念祝賀会は3階フロアに移動。岩手の酒・南部美人から提供されたお酒で、久慈浩介社長の音頭で鏡開きが行われ、菊地名誉会長の乾杯の音頭がブラジル式で行われ、美味しい酒・南部美人で祝った。

次いで記念ボーロ（ケーキ）にナイフを入れられた。

祝賀会では参加者が様々な出会いや、久々に交流会となり大いに語り合ったに違いない。



また裏方で準備や受付、その他の対応と特に若い人たちのお陰と感謝を申し上げます。



皆さんありがとう
Muito Obrigado !!



岩手芸能まつり 華やかに

8月26日午後1時半から、岩手民謡協会（藤沢晴美会長・団員10名）による「郷土芸能まつり」が「華やかに」開幕した。

思えば創立35周年（1983年）当時の菊地会長時代に、郷里の兄に遠くふるさと岩手を離れて「緑の大地ブラジル」で活躍している県人に、郷土芸能を「聞かせ見せたい」と相談。話しはスムーズに運び県からの「芸能団」派遣となったようです。

写真下35周年で公演した郷土芸能



好評を受けた、周年式典には慶祝の一環として毎回芸能団の派遣をお願いしている。

遠くパラナ州クリチバやロンドリーナは2回公演、奥地のツツパン、アチバイア、リオ、スザノ市（日本移民100周年）で公演。娯楽の少なかった地方に民謡民舞歌謡と岩手や他県の唄も披露。大喝采を浴びた。

5年前パラグアイのイグアス県人会が50周年に、小原会長さんと相談「郷土芸能団」派遣方を当会共々お願いした。隣国でご苦労され

た県人移住者に懐かしい岩手の芸能披露となった。（5年前福田こうへいさんも新曲「南部せみ時雨」がヒット中の来伯、その暮れに紅白に初出場）今回もアルゼン



チン、パラグアイの4県人会とも郷土芸能を堪能されたとの事です。歴史の一片として残したい思いです。

始めに藤沢清美団長が、懐かしい郷土芸能を堪能して欲しいと挨拶。名司会と芸や歌何でもこなせる中川愛子さんにバトンタッチ、1部は「ふるさと岩手と東北唄まつり」で地域の唄と踊りを披露。2部は懐かしい「歌謡と民謡コーナー」で芸の尊さを披露。観客は相を取ったりして大きな拍手がおくられた。

伯国日本民謡協会の塩野彰会長は、コロニアの民謡歌手もプロの唄を生で聞いて、勉強する必要があるにあると語っていた。

伯国日本民謡協会の塩野彰会長は、コロニアの民謡歌手もプロの唄を生で聞いて、勉強する必要があるにあると語っていた。

北条真由美さん（写真上）の東京のバスガールに、観客は一緒に口づさむ人も多かった。



35周年式典後、近郊モジ市など日系集団地でも公演



終盤皆さんのアンコールに答え、知事はじめ来賓、団員と観客も一緒に中川さん

の「炭鉱節」に合わせ会場を踊りまわった。

この日のためにとアチバイアの及川君雄氏が、栽培しているバラの「花束」が芸能団員に贈られた。



写真左「美女美男に囲まれた及川さん。満面の笑顔で」

写真下 芸能団員を労う達増県知事



達増県知事・佐々木議長・谷藤盛岡市長慰霊碑参拝

8月19日、佐々木議長、郷土芸能団、慶祝団一行約30名はアルゼンチン入り、現地の県人会（佐々木晴巳会長）との交流や観光、21日パラグアイのアスンシオン県人会（長沢聖太郎会長、達増知事合流）、23日ピラポ県人会（佐藤豊会長）、24日イグアス県人会（小原和子会長）の各県人会を激励訪問し交流会が行われた。

25日（土）午後慶祝団や知事一行が相次いでコンゴニアス空港着。県知事、議長一行は県人会連合会（山田康夫会長）が管理する広



大なイビラプエラ公園内の「桜」咲く「日本移民先没者慰霊碑」に向かった。既に谷藤盛岡市長は参拝されていたが、知事一行と再参拝しようと待っておら

れた。

県連山田会長から慰霊碑の由来を受けた。知事は参拝し追悼の辞を述べた。過去帳や有名な仏像が祭っている慰霊室も参拝した。



県知事・議長・慶祝団一行を迎えお国言葉で 歓迎交流前夜祭



Boas - vindas

8月25日（土）午後6時半から、県人会創立60周年を祝うと共に、歓迎交流前夜祭が県人会館で行われた。

千田会長は達増県知事はじめとする、多くの慶祝団員や南米県人会代表を迎えたことに感謝を述べ、「親睦を原点」とした会員一同結束し、母県との交流が益々盛んになり活動も活発になっている事を報告した。

達増県知事、佐々木議長、谷藤盛岡市長、本田遠野市市長、小野寺金ヶ崎町副町長、菊地山田町議員（慶祝総団長）、東根岩手日報社長、佐藤県相撲連会長が祝意を述べた。

佐々木議長は初訪伯、谷藤市長と吉田賛助会長は5年ぶり、本田市



長は30年ぶり、東根社長は28年ぶり、菊地議員は何回目のはず。久慈社長から提供された酒・南部美人で佐々木県会議長の音頭で祝杯を

挙げた。

ひととき食事を取りながら、様々な出合いを喜び近況を語ったり、幅広い交流が繰り広げられた。母県で学んだ留学生や研修生も多く参加し再会に喜び合ったり、写真に納まるなど・・・

県人会では、次年度留研生希望者、神村リンコンさん、川村ミキさんを佐藤幸国際室担当者に紹介。

時間が過ぎる中、芸能団皆さんのショー「東北の詩情をうたう」が始まり懐かしい郷土芸能を久々に楽しんだ。佐野ようこさん（写真右）は、中学時代民謡大会で最年少で優勝。だが先の大震災の津波で両親を失い、ショックで歌いたくても涙があふれて唄えなかったと云う。地元被災者の声に押され復帰し、被災地応援の活動にも参加しだした。



震災には南米の県人会からも支援があった。直接お礼をしたいと初参加し「相馬盆唄」「南部牛追唄」「無法松の一生」を歌いあげた。



名景 北上川と盛岡市を背景に郷土芸能を披露

岩手県人会次世代継承の集い、活性化も

Associação de sucessão da próxima geração da Associação Provincial de Iwate

6月17日(日曜日)「ブラジル岩手県人会次世代へ継承」の集いが行われ、会員、元青年部、留学研修生など約60名が参集し、今後の県人会について語り合った。

千田会長は集いの趣旨について、岩手出身の先人達が様々な屈折のなか築いた県人会は、創立60周年を迎える事になった。一世である移住者も他界や高令化など会員の減少に伴い、これからの県人会を次世代への継承や、リーダー育成・活性化などについて話し合って頂きたいと説明があった。

元青年部長たち数名が、当時50名程の青年部活動でカラオケ大会、ピクニックや旅行など活発な活動を行っていたが、ブラジル経済の悪化で多くの若者が、日本への就労や仕事に専念せざるを得なくなり、県人会活動への参加が難しくなったが、今後出来るだけ県人会活動に参加したいと語った。

また、留学生・研修生経験者は県人会と母県岩手のお陰で、現在



の私たちがいる。出来るだけの活動に参加し県人会の消滅を防ぎたいと語った。

集いの成果として「日本まつり」「創立60周年式典」の準備や、当日の受付や案内と諸部門で多くの若人の協力があり、無事式典を終えた事に感謝する。今後とも宜しくお願いします。写真右上最後に全員で、左下 留研生の皆さん



W杯2018・県人会で応援観戦会

Copa do Mundo de 2018



観戦会は邦字紙F氏の提案で、フェイスブックで広報をするからと急遽テレビ応援観戦会を行う事になった。

去る6月19日県人会で、ワールドカップ日本代表サッカーテレビ観戦会が行われ、日本代表のユニホームなど着て応援に備えた。(日系人、商社マンや諸外国人が集まった)

初戦は強豪コロンビアで、各テレビ局やメディアも取材に来館。試合開始から6分香川選手のペナルティキックで一点、前半39分コロンビアが得点。後半日本は2点目を決めた。ガッツポーズで喜びを分かち



この日岩手日報社からの電話取材があり写真を送信し日報紙に掲載された。

7月2日勝てば対ブラジル戦をと期待され、約70名のサポーターが集まり対ベルギー戦が行われた。前半2点目を入れた日本

に期待が高まり大歓声が上がった

が、後半次々と3点を取られ8強入りがなかった。サポーター2名が悔しがりむせび泣いていた。

4年後のワールドカップに期待して!



第21回日本まつり 日本移民110周年に皇室から「眞子さま」迎えて

21°Festival do Japão

Imigração Japonesa 110 anos

第21回目を迎えた日系最大のイベント「日本まつり」が、7月20日21日22日に EXPO SÃO PAULO で行われた。21日には「日本移民110周年」委員会の式典開催も兼ねる、巨大舞台や観覧席も設けられ大々的な宣伝もあり、過去最高の21万5千人が入場した。

岩手県人会の出品は「三陸わかめうどん」「コロッケ（マンジョッカ）」「餃子」「ソバ」などであった。初日20日多くのブースでガス接続のトラブルがあったが、当会は前日夕刻までガスの引込は済ませておいた。



今回は日本食500食をギブネス世界記録にと、各県人会がそれぞれの食を提供したが、委員会では肝心の基準を聞いておらず、550 食用意されたが目標の500食に対し2食が撥ねられ498食に留まった。結果からギブネスにはめられた感がある。次回は挑戦の基準を聞いて欲しい。

6 月の県人会継承の集いに集まった、多くの若者たちの献身的なお手伝い（3日間で約130人）があり、祭で若い人々の様々な交流があった事を伝えたい。 **お疲れさまでした**

誕生会・60 周年慰労会

9 月 16 日「第 66 回会員交流誕生会（4 月 - 8 月生まれ）及び 60 周年式典慰労会」が行われ、75 名が祝い慰労の交流会があった。



岩手県人会創立60周年を ありがとう

去る8月25日慶祝団歓迎交流前夜祭、26日創立60周年式典を会員皆様方の事業資金のご協力、遠く母県庁はじめ慶祝皆様方のご支援により無事開催出来ました事、会を代表して心から深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

県人会では60周年を記念して、皆さんの子弟や次世代、或いは県人移住者や母県関係者への資料として日ポ語で記念誌発刊を準備中です。皆さんの移住体験や次世代へ願いなどの寄稿文をお願い致します。

写真提供 式典関連の写真提供は伊東さん、松本さんでした。
ありがとうございました。



ふるさと図書室利用数 Biblioteca-Iwate-kenjinki

1月 443 冊-101 名、2月 420 冊-90 名、3月 407 冊-109 名、
4月 424 冊-103 名、5月 453 冊-91 名、6月 391 冊-83 名、
7月 529 冊-111 名、8月 387 冊-97 名、9月 344 冊-83 名、

県人会事務所来館者数

Numero de visitantes

1月 338名、2月 355名、3月 337名、4月 395名、5月
412名、6月 377名、7月 359名、8月 448名、9月 352名、

悲しい逝去者のお知らせ Falecimento

上村 啓子さん (Sra Keiko Kamimura. 東山町出身、1931年渡伯、故栃沢千秋氏の妹) は、去る7月10日逝去されたと家族から知らせありました。上村さんは昔日本民謡が上手だった。

村松 宏子さん (Sra Hiroko Muramatsu. 行年70才、5代目会長吉次郎氏長男弘一氏の妻) は長らく病氣療養中でしたが、去る9月30日夕刻逝去され、県人会有志でお葬式に参列しました。

思い出あれこれ



NY 岩手県人会より記念ブラス



ふるさとだより ⑭ 記事提供 岩手日報社 Web News

Noticias de Iwate ken - Jornal Iwate Nippo

ブラジル県人会60周年を報道

ブラジル県人会 60 周年 記念式典、 移住 100 年の歩み回顧

入植の歴史を振り返り、両国の交流活発化を誓い合ったブラジル県人会の60周年記念式典＝26日（日本時間27日）、サンパウロ 2018.08.28 岩手日報 【ブラジル・サンパウロで報道部・稲垣大助】



ブラジル県人会（千田曠曉（ひろあき）会長）の60周年記念式典は26日（日本時間27日）、サンパウロ市内で行われた。ブラジルに県人が移住して今年で100年。南米で長年紡がれてきた移住者の母県・岩手への思いは、本県との長年の交流で太い絆に成長した。本県、南米の参加者は次の100年を見据え、次世代への継承を誓った。

千田会長、達増知事、佐々木順一県議会議長、谷藤裕明盛岡市長、東根千万億岩手日報社長ら約300人が出席。達増知事が「長年にわたる血のにじむような努力に敬意を表する。ブラジル社会の一員としてさらなる発展に寄与してほしい」と祝福した。

県が1971年から続ける県費留学生・研修員を代表し、2016年度に来県した曾祖父が奥州市出身の日系3世、八重樫亜紀カリンさん（22）は「岩手で日本料理を学んだ経験は（ブラジルで料理長として働く）現在に結びついている」と感謝した。制度を利用し、南米から累計198人が来県している。

支援に感謝、南米へささげる民謡 震災で両親犠牲の佐野さん

南米各県人会が展開する復興支援への感謝を込めて民謡を歌う佐野よりこさん＝25日（日本時間26日）、ブラジル・サンパウロ 2018.08.27 【ブラジル・サンパウロで報道部・稲垣大助】

東日本大震災からの復興支援を展開した南米の県人に感謝を伝えようと、津波で両親を失った本県の女性民謡歌手が、ブラジルなど各国で思いを込めた歌声を披露している。盛岡市中央通の佐野よりこさん（48）は、南米を訪問中の郷土芸能使節団（藤沢清美団長、10人）に初参加。震災直後にショックで歌えなくなった佐野さんは、地元の声に背中を押されて活動を再開した。本県から約2万キロ離れた地で、佐野さんと南米移住者の古里を思う気持ちが共鳴した。

「震災後、南米の皆さんに古里を支援していただいた。直接お礼を言いたい」。25日（日本時間26日）にブラジル・サンパウロで開かれたブラジル県人会60周年記念式典前夜祭で、佐野さんは亡き母が使っていた帯揚げを浴衣に忍ばせて「相馬盆唄」を歌い上げた。会場から拍手が送られる中、帯にそつと手を添えておじぎした。

佐野さんは釜石市鶴住居（うのすまい）町出身。3歳で母マサエさん＝当時（74）＝と一緒に民謡教室に通い始めた。めきめきと実力を付け、中学生時代には同市の民謡大会で史上最年少優勝。「南部牛追唄」「外山節」など数々の全国大会で日本一となり、父祐三さん＝同（73）＝も会場で喜びを分かち合った。

だが、2011年3月11日、津波が両親を奪った。「歌いたくても涙があふれて声が出せない」。2人を失った衝撃で歌えない日が続いた。

転機は「よりこちゃんの唄が聴きたい」という地元の被災者の声だった。郷里の声に背中を押されて11年11月に本格復帰。民謡歌手の漆原栄美子さん（矢巾町）らと被災地を回る活動にも参加している。





Associação Cultural e Assistencial Iwate Kenjinkai do Brasil

フウシル岩手県人会

Rua Thomaz Gonzaga 95-M Liberdade São Paulo Brasil CEP 01506-020

TEL/FAX (11) 3207-2383 www.iwate.org.br e-mail iwate@iwate.org.br

岩手県人会ニュース200号、

2018年10月発行

